

# 能勢町 次期教育大綱（案）

～「知と交流」で未来を拓き、一人ひとりのウェルビーイングを実現する、グローバルな学びのまち・能勢～

## 1. 基本理念

能勢町は、「子どもの権利条約」の精神に則り、すべての子どもが個人として尊重され、その意見が大切にされる「こどもまんなか社会」の実現を教育の根幹に据えます。

豊かな自然と歴史を「生きた教材」として活用しながら、小中高 12 年間の一貫教育と生涯学習の循環を通じて、自ら学び、考え、行動する持続可能な社会の創り手となる「グローバルな人材」を育成します。

一人ひとりの最善の利益を第一に考え、教育 DX の推進と教育・福祉の強固な連携により、子ども・教職員・地域住民すべての「日本社会に根差したウェルビーイング<sup>1</sup>」の向上を追求します。

---

## 2. 重点施策と具体的取組

### ① 確かな学力の定着と、教育 DX による学びの革新

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実：ICT を高度に活用し、子どもの習熟度に応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と対話する「協働的な学び」を両立させます。
- 認知機能に着目した「基礎読解力」の底上げ：問いを立て、複雑な情報を正しく理解・分析し、自らの考えを論理的に構築する力を育成します。
- 教育 DX の推進と校務の効率化：クラウド活用等により「校務 DX」を推進し、教職員の働き方改革を実現し、教員が子ども一人ひとりと向き合う時間を最大化します。

### ② 「持続可能な社会」を担う、12 年間の能勢地域連携・一貫教育

- ESD（持続可能な開発の教育）の推進：能勢の豊かな自然資本を活用し、環境保全や持続可能な社会（SDGs）を自分事として捉える探究学習を推進します。
- 能勢課題探究の深化：産学官が連携し、職場体験に留まらず、地域の課題を中高生がビジネスやテクノロジーの視点も交えて解決策を練る、実践的なキャリア教育を展開します。
- デジタルとリアルベストミックス：デジタル教材を積極的に活用しつつ、能勢分校等との連携による農業体験や英語交流など、リアルな体験（身体的・五感的体験）の価値を重

---

<sup>1</sup> ウェルビーイング…身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。

視し、豊かな人間性を育みます。

### ③ ウェルビーイングを支える「教育と福祉」の包括支援

- 誰一人取り残さないセーフティネットの強化：「能勢・福祉・教育プラットフォーム」を基軸に、経済的困難、不登校、虐待等の課題に組織的に対応し、子どもの安心・安全を保障します。
- 特別支援教育の質的担保：必要な専門職の配置と全教員の専門性向上を図り、インクルーシブな教育環境を深化させます。

### ④ 生涯学習の拠点化と関係人口の創出

- 新生涯学習センター（図書館）の整備：旧久佐々小学校体育館を活用し、単なる施設を超えた「知と交流の拠点」として、多世代が集い、地域の知的資産<sup>2</sup>を守る場を創出します。
- 関係人口を巻き込むコミュニティの活性化：町外利用者も含めた「学びのコミュニティ」を構築し、地域文化の継承と、町全体の活性化につなげます。

---

## 3. 計画の実効性確保と評価の推進（PDCAの確立）

- エビデンスに基づく政策形成（EBPM）の推進：施策の達成度を測る具体的な指標（KPI）を設定し、その成果を定期的に検証することで、計画の有効性を客観的に評価し、継続的な改善を図ります。これにより、限られた予算と人的資源を最も効果的に配分し、能勢町の教育行政が持つ説明責任を果たします。
- 施設等の計画的維持管理：ICT環境や学校施設、社会教育施設等の老朽化に対し、長寿命化改修等を含む計画的な維持管理を実施し、安全・安心な教育環境を継続します。
- 子育て世代への魅力発信：転入者増の要因となっている「能勢の教育の魅力」を定量的に分析し、次世代へつなげます。

---

#### 参酌資料：

- 資料①～④（能勢町教育委員会資料）
- 教育振興基本計画（国の抜粋資料）

---

<sup>2</sup> 地域の知的資産…その地域ならではの人材、ネットワーク、歴史・文化など、地域の競争力や価値の源泉となる資源の総称